

週報



継続と改革

例会日 毎週水曜日 12:30～ 例会場 ホテルシーズン日南

住所 日南市園田3-11-1 TEL 0987-22-5151 FAX 0987-22-9588

会長 黒岩久登

水と衛生月間

第3370回例会	No.33	2024.03.27	晴れ
点鐘・国歌・ロータリーソング	12時30分	「それでこそロータリー」	
四つのテスト	日高章太郎 君		
ゲスト	西村英利 氏 (社会福祉法人愛泉会理事長・2700地区直前ガバナー)		
例会行事	ゲスト卓話		

会長時間

先々週に引き続き東日本大震災で家族を亡くされた遺族の手記をご紹介します。27歳の時、待望の長男が生まれて父親になった。ひとりっ子ということもあって厳しくしつけたから、「怖いおやじ」と思われていたかもしれないけど、自分でも親ばかだと思くらい大事に育ててきた。その息子が27歳で人生を終えるなんて夢にも思わなかった。未来に向かって歩いていく姿をもっと見たかった。仙台にある東北学院大の元職員、小原武久(67)さんは、2011年3月の朝の光景を今でも鮮明に振り返ることができる。太平洋に面した宮城県名取市閑上(ゆりあげ)地区で、小原さんは妻、長男の聖也さんと3人で暮らしていた。いつも通りみんなで朝食を摂った後、聖也さんは妻からイチゴのケーキの作り方を教わっていた。小原さんがホワイトデーのお返しに違いないと思って「味見させて」とからかうと、聖也さんは「だーめ」と笑って返してきた。小原さんが妻に続いて出勤するとき、愛犬を抱っこした聖也さんが見送ってくれた。「玄関の鍵、閉めて行ってね」。これが最後の会話になった。聖也さんは派遣で電話オペレーターの仕事をしていて、この日は不運にも休みだった。家にいたところ、午後東日本大震災が発生。大津波に襲われた閑上地区では、聖也さんを含む750人以上が亡くなった。「家も何もかも流されたから・・・」。小原さんは数えるぐらいしか残っていない聖也さんの写真を見つめ、面影をたどる。そのうちの1枚は、聖也さんが通っていた関西学院大(兵庫家西宮)の卒業式の日正門前で撮った親子の記念写真だ。「この頃は親元を離れたかったんだろうな」。聖也さんは中学、高校と小原さんの職場の系列校に進んだものの、大学進学を機に実家を出た。ところが8年後に帰郷し再び両親と暮らすことになる。勤務していた東京都内の保険代理店が倒産し、そのまま都内で再就職先を探したものの、リーマンショック後の不況のあおりでうまくいかなかったからだ。震災が起きる13か月前だった。「心配はかけないから」。聖也さんは気をもむ両親を前に冷静だった。就職に強い資格を取ろうと、派遣の仕事しながらファイナンシャルプランナーの勉強を始めた。震災の1ヶ月前には3級に合格。小原さんに合格通知を見せてきた時の表情は、珍しく誇らしげだった。震災当日は夕方に2級の受験料を納めに行く予定だった。震災から16日後、小原さんは遺体安置所で聖也さんと対面した。未来に向かって努力していた息子の変わり果てた姿を前に、生きていく力が全身から抜けていった。「震災がなければ、将来どんな仕事に就いたかな。結婚して父親になっていたんだろうか。本人が一番悔しがっていると思う」。震災後は眠りにつくと聖也さんの夢をよく見るようになった。中学生まで厳しくしつけたせいか、子供のころの息子ばかり出てきて、いつもしかっている自分がある。「なんでもっと優しくできなかったのか。聖也はどう思っていただろう。ごめんね。」目が覚めるたび、手を合わせて謝った。それでも、真つすぐに育ってほしいという願い通り、聖也さんは誰に対しても優しくかった。地震が起きた直後、近所のお年寄りに「大丈夫ですか」と声をかけて回っていたと、助かった人たちから

聞いた。16年に仙台市内で再建した自宅には中学時代の同級生たちが今も遊びに来てくれる。聖也さんが実家に戻ってきたのは失業という不本意な形だったが、家族3人で暮らせた13か月は何よりの幸せだった。ぜいたくなくていい。みんなで食卓を囲み、何気ない会話を交わす。あの日の朝のような日常こそが生きがいであった。震災を経て、そう気づかされた。

23年6月、小原さんの肝臓にがんが見つかった。「聖也の分まで、一日でも長く妻と人生を歩んでいかなくてはいけない」。使命感にも似た思いで治療に向き合い、直近の検査で経過は「良好」と診断された。11日も閉上の墓に参り、聖也さんに伝えるつもりだ。「元気でいるよ。これからも見守っていてね」

東日本大震災から発生13年を迎えますが、遺族の悲しみは容易には消えるものではありません。亡くなられた2万人以上の方々にはそれぞれ家族があり家族の歴史がありました。一体どれほどの方が嘆き悲しんだのでしょうか。大地震・大津波をはじめとする自然災害を食い止める方法は今のところありません。

今年も石川県で大地震が発生し、能登地方の住民の方々を苦しめています。災害を前提に生きることは難しいですが、非常食の備蓄、避難路の確認など、今できる準備はしておきましょう。災害に遭遇しても、家族が全員無事であるために。家族の団欒を続けていくために。

## 幹事報告

1. ロータリー希望の風奨学金より、風の便り（通刊 113号）が届いておりますので、回覧致しますのでご覧ください。
2. 串間ロータリークラブ 河野清見様より亡妻河野佐和子様ご逝去に伴う弔電のお礼が届いております。
3. 次回4月3日は、夜間例会となっております。例会後、恒例の観桜会を開催致します。準備の都合もありますので、出欠確認表を回覧致しますのでご都合をご記入願います。

## スマイル

西島元利君 本日は、父が大変お世話になりました。父親のプロフィールを作るのがこんなに難しいとは思ってもみませんでした。（苦笑）今後も父ともどもよろしくお願ひいたします。

斉藤篤史君 昨日行われた70周年実行委員会の後の居酒屋のお釣りをスマイルします。70周年事業みんなで成功させましょう!!

石灘寛樹君 昨日は、70周年実行委員会直前で欠席してすみませんでした。

築瀬 敦君 鹿児島島の専門学校に行っていた次男が、来月から日南市役所に勤務することとなりました。配属先はまだわからないのですが、いろいろありましたがようやく就職しました。そして、高校時代からお付き合いしていた女生徒とめでたく入籍し日南市内に引っ越し、日南市の人口をわずかながらですが増加させてくれました。先日、ようやく両家の顔合わせが終わりホットしました。二つのうれしい出来事をまとめてですがスマイルします。

小玉 淳君 昨日は、57回目の結婚記念日でした。寛容と忍耐と妥協の幸せ。ささやかながら外食をしました。先週の例会日だったら大学卒業と就職の挨拶に来ていた孫を同伴して出席できたのですが、祝日会で残念でした。

## 例会行事

### ゲスト卓話 西村英利 氏(社会福祉法人愛泉会理事長・2700地区直前ガバナー・小倉南RC) 「メンタルヘルス」



私の人生は、自分の考えたことが実現できない人生でした。

医師になりたくなかったのに親の考えが強く、医学部に行かざるを得なかったこと。精神科になりたくなかったのに、精神科医にならざるを得なかったこと。また、精神科は偏見が強く、精神科には受診したくないと患者さんが言うことでした。

大学の医局を辞めてから、精神科病院に勤務するようになって地域の人への理解を求める活動を始めました。そしてロータリークラブへの入会を勧められましたので入会してからは、会員の方々が精神科に関心を示されるようになったので、卓話でうつ病の話をして患者さんを紹介していただくようになりました。

そのような中で日本医師会常任理事の話があり、更に6年後には参議院比例区議員に立候補するようになり、全国をまわるようになりました。参議院議員になった時、精神保健法が改正になったのですが、精神病院の名称が変わらないために、平成18年に議員立法で「精神病院の用語の整理等のための関係法律の一部を改正する法律」を成立させました。精神病院を精神科病院に名称変更するためです。

参議院議員を辞めてから再度ロータリーに入会し、精神科への理解を求める活動を続けたところ、2700地区のガバナーになるように勧められ大した活動はないと言うことで了解しましたが、60クラブの訪問活動があり、大変でした。新型コロナ感染症の為に懇親会は無かったのですが、とても大変な1年間を過ごしました。

しかし、各々のクラブの考え方を聞く機会があり、有意義な1年間でもありました。そして2023-2024年度国際ロータリー会長 ゴードンR. マッキナリーのテーマは「メンタルヘルスの優先」であります。日本もようやくメンタルヘルスの時代になってきました。

#### 出席率報告

	会員数	出席免除	出席定数	HC出席	MU	欠席	出席	出席率
今 週	30	7 (3)	27	23	1	3	24	88.88%
出席免除	落丸、清水、渡邊							
先取MU	豊田							
欠 席	榎木田、甲斐、村社							

事務局〒887-0014 日南市岩崎3-4-2 Itten 堀川ビル2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515

会長：黒岩久登 副会長：築瀬 敦 幹事：井野畑善順 雑誌会報広報委員長：河野通郎

雑誌会報広報委員会より 原稿は、[ocame@wing.ocn.ne.jp](mailto:ocame@wing.ocn.ne.jp)まで送信してください。